



今月の先生

岐阜市民病院

山本 和重氏

産婦人科（内視鏡）部長

昭和55年岐阜大学医学部卒業、産婦人科内視鏡下手術が専門。日本産科婦人科学会専門医、母体保護法指定医、日本産婦人科内視鏡学会技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医

# 働くあなたのクリニック



子宮内膜症  
かもしれない？

子宮内膜症とはどのような病気でしょうか。

**A** 子宮内膜症とは、本来子宮の中に存在する子宮内膜組織が子宮の外で発育する病気のことです。月経がある年代の約1割に発生し、出産経験のない方に多く、妊娠により軽快することが多いのですが、近年増加傾向にあります。発病のきっかけとして月経血の逆流があります。月経血は体の外にも出ますが、卵管を伝ってお腹の中にも流れ出ていき、その中には子宮内膜組織も含まれています。通常は白血球が食べてきれいにしてくれるのですが、それがうまくできない人がいるわけです。そうするとお腹のなかで子宮内膜組織が生き続けてしまい発症するわけです。卵巣に発生しますと、子宮内膜組織と同じような組織のために、月経時にそこで出血を繰り返し、血液が溜まり嚢胞を形成してきます。血液は古くなると茶色くなり、ちよちよどちよちよを溶かしたような液体が溜まっているということで別名チョコレート嚢胞と呼ばれます。

診断・治療について教えてください。

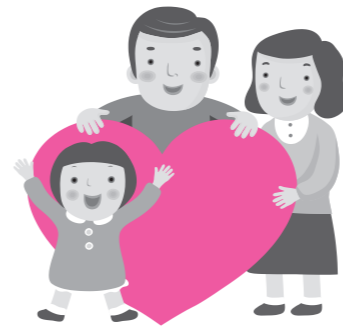
**A** 内診後、超音波断層検査や必要があればMRI断層写真や血液検査を行います。お腹の中を小さなスコップで調べる腹腔鏡という手術検査をすることもあります。内膜症病変があれば手術治療を同時にするのが最近では一般的です。

薬での治療には、対症療法とホルモン療法があります。対症療法は症状を和らげる治療で主に痛みをとる治療です。痛みがピークに達してからよりも、痛みがひどくなる前に、すなわち月経開始前から痛み止めを服用するほうが効果も高く、早めに服用されたほうが宜しいかと思えます。ホルモン治療には女性ホルモンを抑制する偽閉経療法、女性ホルモンを利用した低用量ピルや黄体ホルモン療法があります。副作用の点から最近では低用量ピルや偽閉経療法を組み合わせた黄体ホルモン療法が注目されています。また5年以上妊娠の希望がない方には黄体ホルモン剤入りの避妊リングもお勧めです。

レート嚢胞と呼んでいます。放置しておくとまれに破裂や癌化することがありますので注意が必要です。アレルギーとか遺伝も考えられていますが、はっきりしたことはわかっていません。

症状について教えてください。

**A** 月経痛が最も多く、その多数が痛み止めを使用しています。その他にも月経時以外の下腹部痛や腰痛などの慢性骨盤痛、排便痛、性交痛、不妊症などがあります。原因がよくわからない不妊症の約半数に合併するとも言われています。



す。

手術には温存手術と根治手術があります。温存手術は子宮、卵巣を温存する手術で、将来子供さんが欲しい方が対象になります。根治手術は子宮、卵巣をとる手術で、妊娠を希望しない方や、温存手術、薬で効果のない方が対象になります。最近は開腹手術より小さな穴を開けてやる腹腔鏡下手術が主流になっており特に温存手術は腹腔鏡下手術のほうが術後の癒着が少なく有利と考えます。

最後に読者の皆様にアドバイスをお願いします。

**A** 子宮内膜症は月経のあるうちは付き合っていくしかないといけない病気で、一度治療したらもう二度とわからないという病気とは違います。また、チョコレート嚢胞のある方は放置しておくことが稀に癌になることがありますので、嚢胞をずっと持っているのは得策ではありません。定期的な診察と、適当なサイズでの手術治療、特に40歳以上の方は手術での摘出をお勧めします。